

### ヒト成人T細胞性白血病ウイルス[HTLV-1(human T - lymphotropic virus type1)]

成人T細胞白血病(ATL)はHTLV-1というウイルスの感染で感染後40年以上の潜伏期を経て発症する疾患で、キャリアがATLを発症するのは約2%とされています。感染したお母さん(キャリア)から生まれた赤ちゃんに母子感染するのが主要な感染経路といわれており、約30%で母子感染が起こるといわれています。母子感染の大部分は母乳栄養児であり、授乳によって主に感染するといわれています。したがって妊娠中にお母さんのHTLV-1抗体を測定し、キャリアであることがわかればある程度、児への感染を予防することが可能となります。キャリアからウイルスを排除する手段はなく、ATLに対する有効な治療法も確立されていないので、感染予防が重要とされています。

HTLV-1キャリアのお母さんから赤ちゃんへの母子感染予防法としては、1)ウイルスへの曝露を避ける(人工乳哺育)、2)ウイルスの感染性をなくす(不活化;母乳を-20度で凍結後与える)、3)感染リスクの低い時期を利用する。(短期母乳哺育)など報告されています。抗体検査が陽性であった場合はこれらの中からどの方法を選択するか、主治医と相談して決めることとなります。